

## 薬学研究科薬学専攻（博士課程）

### ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）は、薬学分野の高度な学術的基盤を身につけ、おもに医療薬学領域において極めて高度の専門性と豊かな学識を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる地域社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。

本研究科薬学専攻（博士課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（薬学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる地域社会においてリーダーとして活躍できる能力
- 専門性の極めて高い能力と豊かな学識を有する高度医療職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や医療倫理にかかわる能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボロミクス）、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、医療の進歩や種々要因のグローバルな変化が地域社会にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、それぞれの専門領域（薬探索、生体防御、医療）において、薬学専攻（博士課程）の教育研究上の目的に基づいて設定されたディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端生命科学特論、先端医療薬学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライサーチ特論を必修科目とし、医療薬学における高度な専門的な知識の修得および豊かな学識の涵養を図り、急速に進む国際化に対応した地域社会の維持・発展に寄与できる能力を養成します。

- 特論演習では、各領域それぞれが専門とする教育・研究を対象とした知識と技能を修得し、自立した研究能力を有するスペシャリストを目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて策定された研究方針を、副研究指導教員も加えた定期的なディスカッションをとおして形成的評価を繰り返します。最終的に博士論文として完成させることにより極めて高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

### アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、薬探索、生体防御および医療の各領域において、以下の学力や意欲を有する人を受け入れます。

#### 志向性：将来の進路

- 薬学の専門知識を、グローバルな視点で個々人の主観的 QOL（quality of life：生活と人生の質）を高く維持することに活用しようとする強い意欲のある人
- 先進の探求的研究に基づく知見を広く収集し、それにより得られた高い問題解決能力を地域社会における医療と人々の健康増進に活かす意志のある人

#### 期待する能力：知識・専門性

- 薬剤師としての資格を有するか、それと同等な有機化学、物理化学、生化学、生理学および薬理学の確かな学力を有する人
  - 薬学専攻（博士課程）において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
- 入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：卒業研究、英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学など

#### 期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えるとともに、医療倫理において求められる能力についても深く考察し、地域に生活する人々の問題を解決するために意欲的に努力する人

（2021年4月入学者用）